

私の妻は、毎日の通勤で鉄道を3時間以上、利用しています。そのためか、我が家では帰宅時に鉄道に関することがよく話題になります。「ダイヤが乱れて遅刻した」「電車があと少し待ってくれたら乗れたのに」とか、「踏切で長時間待たされた」などの不平・不満の類から、「久しぶりに途中駅に降りたら乗り換えが楽になっていた」「いつの間にか新型ホーム柵ができていた」といった自身にとってのさまざまな“発見”が話題になることもあります。駅ナカの計画が発表されると、こんな店舗が入ってほしい、あわせて駅前はこうすべきだ、そもそも街づくりはこうあるべきだなど、話が大きく発展していくこともしば

しばです。鉄道は私たちの移動の足として欠かせないものなので、場面や状況、その感じ方は違えど、日本のあちこちで、このような会話がなされているのではないのでしょうか。

さて、今月号では、鉄道の利便性向上に向けた取り組みとして、通信・情報ネットワーク技術や交通計画における各種予測手法を活用した研究成果について紹介しました。

来月号では、鉄道技術の基礎研究について特集します。材料、数値計算から脳科学まで、多分野にわたる基礎研究の取り組みについて紹介しますのでご期待ください。(N. M.)